

# 医療通訳ボランティア育成カリキュラム

本医療通訳ボランティアカリキュラム基準は、医療機関（主に初期救急、診療所、クリニック）における外国人患者と医療従事者間の対話を支援する通訳者（医療職員、団体職員、ボランティア）などに対して一定の質とレベルを持った通訳者を育成するために行うべき研修や指導についてまとめるものである。医療通訳者ボランティアを養成する機関が研修を実施するにあたって活用することを想定している。まず、本カリキュラム基準では上記の医療機関で通訳を行うにあたって最低限必要な「知識、能力とスキル、倫理」を明示し、通訳者を養成するために必要なカリキュラム内容や時間配分、実施規定を提示する。本基準は、「医療通訳育成カリキュラム」「医療通訳共通基準」を基にした医療通訳ボランティア向け研修基準である。

## 1. 医療通訳の役割と対応場面

- 対話コミュニケーションを通訳するために必要な基礎的な知識や語彙、能力とスキルを有し、プライマリー、一般病院における診療等の場面で、言葉の媒介者として、対話者間のコミュニケーションを支援する。
- 言語的、文化的、社会的に異なる医療従事者と患者等の間に入り、両者の相互理解を支援するため、必要に応じて専門家と患者の間の文化的橋渡しを行う

### ●知識

- ・ 医療従事者と患者の健康、医療、コミュニケーションに関わる文化的および社会的差異について知識と理解がある
- ・ プライマリー、一般病院で使われる基礎知識や関連用語を有している

### ●能力とスキル

- ・ 母語と通訳言語において一定の運用能力を有している
- ・ 通訳技術（対話型の逐次通訳）を有している
- ・ 状況に応じて事前準備、情報収集をすることができる
- ・ 利用者の合意の下に必要な応じて適切な形での文化仲介を行うことができる
- ・ 万全な体調で業務にあたるよう、感染予防と体調、メンタル管理を行うことができる
- ・ 自身の通訳を振り返り、常に能力の維持、向上を図ることができる

### ●倫理

- ・ 通訳者としての役割を自覚し、業務規定、職業倫理に則った対応ができる
- ・ 専門職としての意識と責任を持って行動することができる
- ・ すべての人をかけがえのない存在として尊重し、敬意を持って接することができる
- ・ 話し手の意図を正確に理解し、忠実に訳すことができる
- ・ すべての利用者に対して中立・公平な態度を取ることができる
- ・ 職務上知り得た情報等の秘密を保守し、プライバシーに配慮することができる

- ・ 自身の専門的、言語的能力の限界を自覚し、適切な判断することができる

## 2. 育成カリキュラムを受講する条件

以下が育成カリキュラムを受講するための条件である

- ・ 母語において、高校卒業程度の知識、国語の知識（語彙・表現・文法にかんする知識）があること
- ・ 対象言語において日常的な話題について標準的な会話であれば理解できる（B1 以上）
  - ✦ 健康や身体の話について要点を理解し、そのことについて準備なしで会話することができる
  - ✦ 対象言語が話されている地域を旅行して起こりそうな事態に対処することができる。
  - ✦ 経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べるができる。
- ・ 母語、対象言語の国や地域における一般的な習慣や社会常識を理解している
- ・ 文化や社会において異なる価値観を認めることができる
- ・ 利用者に対して敬意を持ちコミュニケーションを図ることができる

※ カリキュラム実施するにあたり、対象者には一定のレベルが必要である。言語能力はヨーロッパ言語共通基準参照枠 B1 程度が望ましい。

※ 対象者のレベルを統一しないでの研修の実施は、育成の効果を得ることは難しいため推奨しない。

## 3. 研修修了の条件

修了には 9 割以上の参加を条件とする

## 4. 研修の内容

医療通訳ボランティアに必要な知識、能力とスキル、倫理、対応力を身につけるための研修を行う

- ・ 医療通訳者の役割（医療通訳について基礎概念や知識）
- ・ 言語プロフィール（自分自身の言語能力の把握、用語集の作成方法）
- ・ 専門職としての意識と責任（医療通訳者として遵守すべき倫理）
- ・ 医療知識基礎\*（身体の仕組みと疾患の基礎知識 / 検査・薬・感染症に関する基礎知識）
- ・ 日本の医療制度に関する基礎知識\*
- ・ 通訳技術（逐次通訳のプロセスと通訳トレーニング、ノートテキング、模擬通訳）
- ・ 医療従事者と患者の文化的および社会的背景についての理解
- ・ 医療通訳者のコミュニケーション力（対人コミュニケーション、文化仲介）
- ・ 医療通訳者の自己管理（健康管理・心の管理）
- ・ 通訳実技（通訳業務の流れとその対応、通訳者の立ち位置とその影響、場面別模擬通訳）

\*利用地域の状況に合わせて講義内容を追加する

## 5. 実習の推奨

- ・ 医療通訳実務をおこなう者に対しては、医療通訳研修終了後、医療機関の流れや業務を理解することを目的とした病院実習を行うことが望ましい
- ・ 実習は、研修終了後、できるだけすみやかに実施すること
- ・ 実習前には必ずオリエンテーションを受け業務範囲や責任を確認すること
- ・ 5日以上の実習が望ましい
- ・ 実習時には記録をつけ、自身の振り返りを行うこと
- ・ 実習中は、単独での通訳業務、翻訳等は行わないこと
- ・ 実習期間中は、実習生は単独で行動せず、常に病院職員（コーディネイター）の指導のもと通訳業務に従事すること

### 実習におけるコーディネイターについて

- ・ 研修では、医療通訳者に指導、教育ができるコーディネイターをつけること
- ・ コーディネイターは、医療通訳者の業務や役割、医療通訳における課題など医療通訳について精通している者が担当するのが望ましい
- ・ コーディネイターは、受け入れ医療機関との連絡、調整を行い、必ず事前に実習生の業務範囲や責任

## 6. 研修終了後の能力維持・向上および指導について

- ・ 通訳能力や知識の維持、向上のために定期的に研修を受けること
- ・ 専門家を介しての通訳事例の検討、共有を行い定期的な指導を受けること

医療通訳ボランティア育成カリキュラム推奨研修 医療通訳ボランティアに必要な知識、能力とスキル、倫理、対応力を身につける

医療通訳ボランティア育成基準の対象者に対して医療機関等での通訳活動開始前の推奨研修

クラス項目	時間数	頁	達成目標	内容
医療通訳者の役割	1.5	8-10	・医療通訳とは何か、その役割と立場について理解し、医療通訳者として身につけてはいけない知識、能力とスキル、倫理について知る。	医療通訳者の役割
		基準		医療通訳者に必要な知識、能力とスキル、倫理
		15-17		対話通訳と相互作用
言語プロフィール	3	26-27	・現在の自分の言語プロフィール（言語能力や話し方の特徴、言語を習得した方法や環境によって獲得している知識に違いがあることなどについて）を把握する。 ・用語集（研修で学んだ用語などについて）を作成する方法を学ぶ。	言語プロフィール
		28-29		用語集の重要性と作成方法
専門職としての意識と責任（倫理）	4.5	416-417	・医療通訳者としてどのように行動するべきかの倫理や行動規範について理解し、それに則った対応や姿勢を身につける。 ・医療通訳育成カリキュラム基準、医療通訳者の行動規範を中心に、「人権尊重」「忠実性と正確性」「中立性と公平性」「誠実さと信頼性」「私的な関係の回避」「能力の限界を知る」「守秘義務とプライバシーの尊重」「礼儀とマナー」について取り上げ、各項目の基本的な考え方を理解し、演習を通じてどのように実践するか学ぶ。	行動規範 人権尊重 忠実性と正確性 中立性と公平性 誠実さと信頼性 私的な関係の回避 自分の能力の限界を知る 守秘義務とプライバシーの配慮 礼儀とマナー
		39-49		
身体の仕組みと疾患の基礎知識	6	52-61	・医療現場で行われる会話を正確に理解するために、身体の仕組みと疾患に関する基礎知識、関連用語を学ぶ。 上記以外、地域のニーズや実態にあわせて「循環器、呼吸器、消化器、筋・骨格系、腎泌尿器と内分泌・代謝系器官、眼科・耳鼻科・歯科・皮膚科領域、精神と脳・神経系、産婦人科領域、小児科領域」について取り上げる	身体の仕組みと疾患の分類の基礎知識
検査に関する基礎知識	1.5	64-72	・臨床検査・画像検査を中心に主な検査の種類・目的や検査方法・検査時の注意事項など検査に関する基礎知識、関連用語を学ぶ。	検査の種類と注意事項（臨床検査と画像検査）
薬に関する基礎知識	1.5	78-81	・処方薬を中心に薬の種類と分類、飲み方、お薬手帳などの薬に関する基礎知識、関連用語を学ぶ。 ・感染症の主な種類と感染経路や予防接種など感染症に関する基礎知識、関連用語を学ぶ。	薬の種類と飲み方（処方薬と市販薬）
感染症に関する基礎知識		86-91		主な感染症と感染経路
通訳に必要な通訳技術	3	96-101	・これまで学習した「身体の仕組みと疾患の基礎知識」「検査に関する基礎知識」「薬に関する基礎知識」「感染症に関する基礎知識」で学んだ内容や関連用語についての用語の確認を行う。 ・医療通訳が用いる逐次通訳について理解し、通訳することとはどういうことであるか、通訳エラーはどのようにして起こるのか、通訳プロセスを通じて理解する。 ・通訳プロセスを成功させるために必要な技術を身につける。	逐次通訳とは
		102-108		通訳技術のトレーニング
	2	148-151		ノートテキング
	2.5	152		模擬通訳（受診の流れ）
日本の医療制度に関する基礎知識	1.5	124	・医療機関（施設）の種類、医療従事者の種類とその役割、各診療科の種類、医療機関の流れなど、日本の医療制度についての基礎知識と関連用語を学ぶ。	日本の医療制度の特徴
		128-129		医療従事者の種類とその役割
		133-135		各診療科の種類
		136-137		医療機関の受診の流れ
1.5	138-144	・医療保険制度と公費負担医療制度を中心にその内容、対象者など医療保障制度についての基礎知識と関連用語を学ぶ。	社会保険制度、医療保険給付、公費負担医療制度	
医療従事者と患者の文化的および社会的背景についての理解	1.5	156-157	・患者の権利と責任、患者の心理と医療従事者の心理を理解する。 ・日本に暮らす外国人の現状、外国人患者の受診、在留資格や滞在ビザについて理解する。 ・健康や医療、コミュニケーションに関連した生活習慣や価値観、宗教観や思想などの文化的・社会的違いを理解する。	患者の権利と責務
		160-162		日本に暮らす外国人について
		163-164		外国人患者の受診
		165-169		外国人患者の在留資格と滞在ビザ
医療通訳者のコミュニケーション力	3	174-176	・コミュニケーションとは何であるかを理解し、コミュニケーションに影響を与える言語、非言語メッセージについて理解する。 ・異文化による衝突や誤解、偏見が生じている原因を両者に気づかせ、相互理解を促す「文化仲介」について理解し、適切な場面で活用できるようにする。また、「権利擁護」と「文化仲介」の違いや対応場面を理解する。 ・医療通訳者が直面するであろう問題について取り上げ、その場面に適した調整や対応方法について理解する。	健康や医療、コミュニケーションに関する文化的・社会的違い
		177-188		言語・非言語メッセージ
		193-196		患者との接し方
		197-204		医療通訳者の文化仲介
205-206	通訳時に直面する問題とその対応			

医療通訳者の自己管理	1	207	・ 万全な体調で業務にあたるための感染予防と体調、メンタル管理の必要性について理解し、ストレスやバーンアウトなどの予防法、対処法について知る。	医療通訳者の健康管理
		208-209		医療通訳者の心の管理（ストレスとその関連疾患についての理解と予防）
通訳実技	6	212-213	・ 通訳を行う前の事前準備や情報収集の重要性と検索方法について理解する。 ・ 通訳者の立ち位置とその影響、通訳業務の流れとその対応について理解する。 ・ 研修で学んだ知識や能力やスキル、倫理を活用してさまざまな場面に対応した通訳ができる。	情報検索の重要性と検索方法
		214-216		医療通訳業務の流れとその対応
		217-219		通訳者の立ち位置とその影響
		224-239		場面別模擬通訳 (科目問診、診療科、検査、状況別)
合計	40			

#### 推奨実習

クラス項目	日数	頁		内容
実習前オリエンテーション	0.5	246-247	・ コーディネーターの指導のもと、実習の目標を設定し、実習計画を立てる。 ・ 実習するにあたって行動規範を確認し、実習に向けての準備を行う。	実習目標の設定
				業務内容、実習計画の確認
		416-417		行動規範の確認
通訳実務実習	1	218-253	・ 実習先医療機関の組織、各部門の機能や役割を理解する。 ・ 病院各部門の連携と流れを理解する。 ・ コーディネーターの指導のもとで研修で学んだ知識や能力とスキル、倫理を現場で実践する。	病院施設の紹介と見学
	4			業務報告・記録